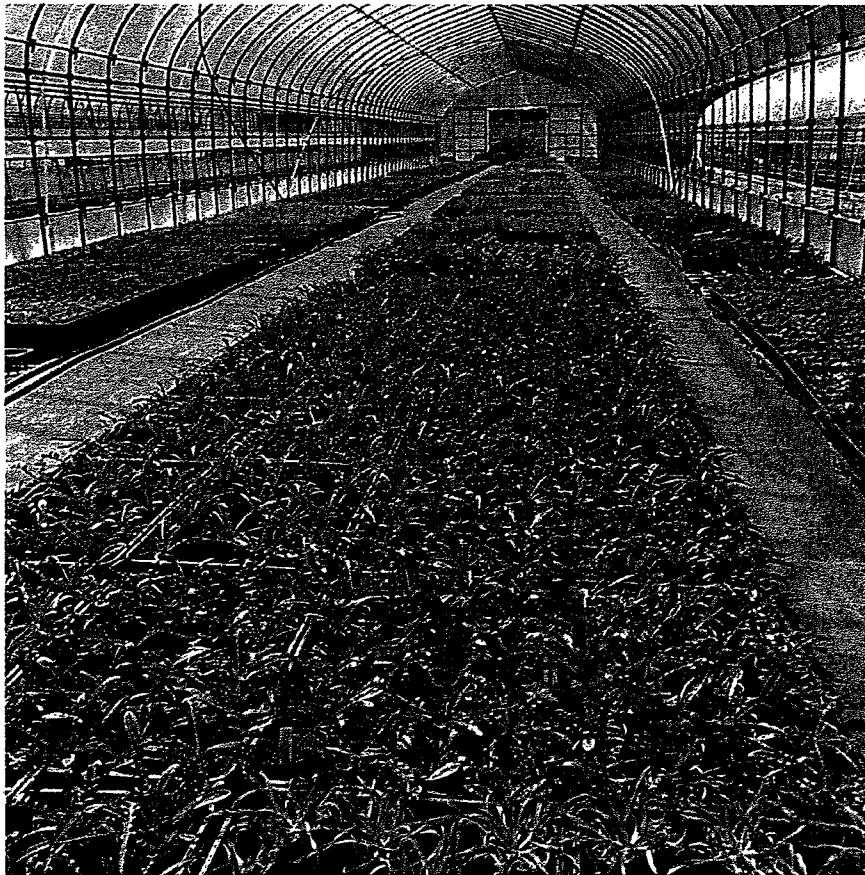


がんばる農家プラン

「働く人を大切にする農業経営をめざして」

省力化で持続可能な未来の農業を目指す



【目次】

- ・企業概要
- ・はじめに
- ・現状の内容（数値と概要）
- ・問題点と課題
- ・問題点の解決策
- ・取り組み内容
- ・今後の目標

株式会社ハニーミントファーム

1 企業概要

株式会社ハニーミントファーム 〇〇農場
敷地面積 150a
栽培面積 花壇苗：ビニールハウス 〇〇棟 約18a
アスパラガス：ビニールハウス 〇〇棟 4.5a
管理棟 培養土ハウス 〇棟・出荷棟 〇棟
スタッフ 正社員4名（代表者含め）パートタイム4名 アルバイト1名
非常勤役員1名 計10名
栽培品目 花壇苗 多肉植物・ハーブ類・ペチュニア・ビオラ・パンジー他
販売先 楽天市場・ヤフーショッピング・自社サイト ネット販売100%
株主 〇〇%出資

2 はじめに

2018年に法人を設立し、〇〇の地に農場を造成し始めてから2年が経ちました。2018年には2棟、2019年には2棟、2020年には2棟と順調にハウスを増やしていき、ようやく栽培面積のみの環境が整ってきました。これから、最低限の機械や環境を整えていき、近未来に向けた施設へと環境を整えていくところであります。

ハニーミントファームとして、複雑な流通と業者による仕組みを取り除き、良質で安価な苗をお花が好きな方々へお届けすること。そして雇用を創出し、よりよい環境で働いていただける（高給、多休暇）場所を提供することを目的として法人運営を行っています。

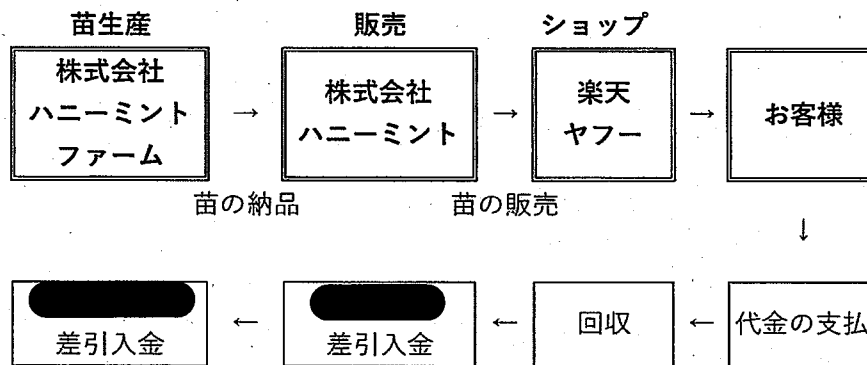
また、鳥取県から全国各地へ商品を発信していくことにより、鳥取県の特産品として確立していくことを目標としたいと思います。

そして、「インターネットを活用した手法」と耕作放棄地を活用し、新規就農者を増やしていく仕組みを早期確立し、多くの方々へ事業の継承、伝達を行っていきたいと考えています。

以上の目標達成のために、本プランを活用し栽培環境の拡充を図っていききたいと思います。

③現状の内容（数値と概要）

弊社は全量、インターネットで生産物を販売しており、株式会社ハニーミントが一括して販売しています。手数料並びに発送送料 [REDACTED] を差し引いて弊社に支払っています。



◎現状の生産量と今後の目標

現在、花壇苗は 17.6 a、アスパラガスを 4 a 作付けしています。

	栽培品目	2020	2021	2022	2023	2024
		現状	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
栽培面積	花壇苗・多肉 面積 (a)	17.6	20.5	39.7	54.4	54.4
栽培量	花壇苗 (鉢)	154,000	170,000	220,000	250,000	280,000
	多肉植物 (鉢)	111,000	130,000	180,000	220,000	220,000

生産面積は大幅に増えるが、栽培用ベンチの導入や余裕のある栽培管理を行うため生産量を大きく増やさない。

※別添資料 2024 年までのハウス割り付け表

4 問題点と課題

1. 栽培面積の不足

問題点その1

毎年ハウスを増やし続け、生産量も増やしてきましたが未だに供給が追い付きません。ネット販売をするうえで、1つのお店でたくさんの品数を販売することが求められ、現時点で年間 350 品種の花壇苗を生産しております。

たくさんの品種数を生産するため、1品種あたりの生産は限られ、販売してもすぐに売り切れてしまいます。そのため、1品種当たりの生産量を増やす必要があります。

概ね 50% の品目で商品を供給できない期間が続いております。

下記の表のとおり、現状よりも倍以上の需要があります

また、お客様からリクエストがあり、来年導入予定の品目だけでも 30 種類以上あり、さらに生産面積が必要です。

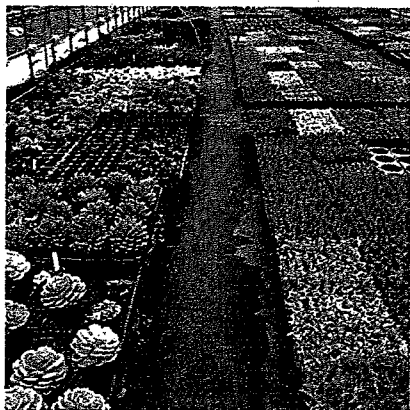
	販売品目	品切数	品切れ率	2020年間販売数	機会損失数
草花	125	53	42%	154,000	111,517
多肉	128	81	63%	111,000	189,000 (鉢)

問題点その2

栽培面積が狭いため、台車が通る通路を確保することができません。そのため手運びで運ぶこととなり、腰痛持ちのスタッフが増加しています。

また、ハウスの際まで通路があるため、パイプ金具での怪我が発生しています。

ハウス面積を増やして通路を広げる必要があります。



2. 出荷作業スペースが狭い！

2020年度、急激に生産量と出荷量が増えたため、出荷スペースが梱包前の苗と梱包した段ボールとで出荷ハウスには納まらなくなってしまいました。

忙しいときには宅配荷物で170梱包=配送業者の3tトラックでは乗り切らない量の梱包を行っています。

急遽屋外に置くなど、一時しのぎ的なことを行っていますが、今後の出荷量増にまったく対応できない状態となっています。

200種類以上の苗が、どこに何があるかをわかるようにしなくてはならないために、棚を組んで置くなどの対策を取るスペースもなく、平置きで置かざるをえない状況です。



写真=現状、足の踏み場もない状況。

3. 培養土のかくはんがスコップで大変！

現在、弊社では生産用培土だけでも年間約80000リットル（10トンダンプ換算20台）かくはんし、使用しています。

スコップで全て混ぜており大きな負担と混ざりムラによる生育不良が問題となっています



写真=現状、土のかくはん作業

10名いるスタッフのうち、この作業による疲労から、腰痛になったスタッフが半数おり、これ以上の手作業によるかくはんは、継続不可の状態となっています。

近年のピートモスの質の低下（団粒化）もあり、手作業でピートモスをほぐすことが難しくなってきました。

4. ポットへの土入れが手作業

多くの生産者がポットイングマシンを導入する中、いまだに手作業で土入れを行っております。機械化を進めると概ね3分の1の労力で済み、人件費が年間●●●●円削減されます。

それ以前に、腰に負担のかかる作業で、重労働でもあります。

また、均等に土を入れることが難しいため、生育のムラや土の乾燥具合のムラにもつながってきています。

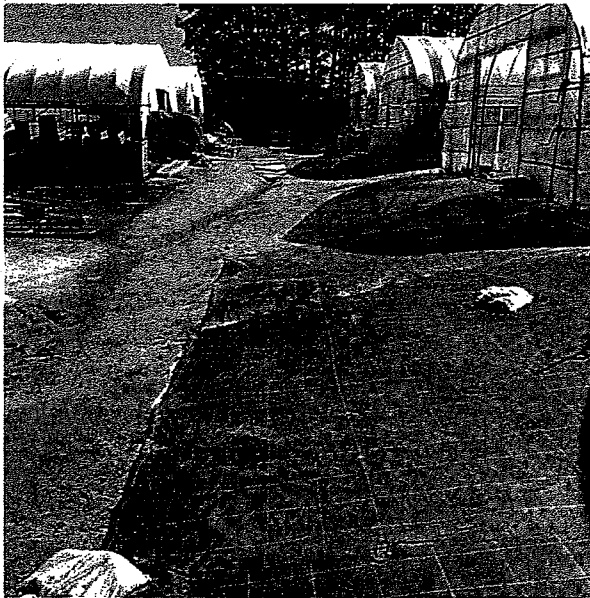
5. 腰痛のスタッフが続出！！さあたいへん！

中腰姿勢の仕事が多く、座れても狭い通路で体を曲げての作業のため、腰に大きな負担がかかってしまいます。

特に苗を地面から持ち上げて、地面に置くという作業が多く、今多くのスタッフが抱えている腰痛の原因となっています。

栽培ベンチの導入と、幅広通路の整備が急がれます。

6. 台車で苗が運べないくらい道がボコボコ



写真=ハウス間通路

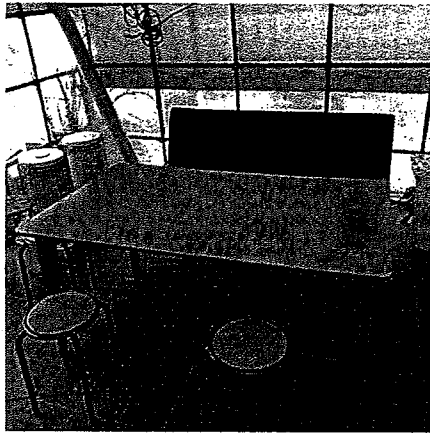
圃場自体が、東西、南北共に4%程度の勾配がついており、通路に水路ができてしまいます。そのため、台車で苗を運ぶことができなく、タイヤ1輪の台車で3ケースずつ運ぶのがやっとという状態です。1日80ケース程度の苗を小さな台車で圃場内を運んでおり、効率の悪さが問題となっています。

2020年経営継続補助金にて、フォークリフトを導入しました。

フォークリフトにて資材や出荷物の運搬ができるように通路の整備が急がれます。

7. 休憩スペースの確保（コロナ感染対策を含む）

現在、休憩時間になると各自車、事務所兼プレハブ、ハウス内休憩机に分散し休憩をとっています。感染症対策をとった十分なスペースをとり、かつ休息できるような休憩スペースの確保が急がれます。



写真＝ハウス内休憩スペース

8. 冬は水が出ない！

農業用の用水も敷設されていますが、12月～2月の間は給水がなく、その期間は多くの時間を水汲みに要します。（3日に1回4トン程度必要）。軽トラしかないため、水源と農場迄8往復しなければならず、栽培管理作業に注力できません。

5 解決策

解決策1 栽培面積の不足に対する解決策

「ビニールハウスの増設」間口 6m×長さ 49m 11棟 間口 6m×長さ 25m 3棟

【狭いスペースの解消】

現在、通路が狭く狭い作業スペースを解消するためにハウスを新設します。

これにより、

- ・すべてのハウスで台車による苗の移動ができる
- ・栽培用ベンチの導入のためのスペースの確保
- ・端での栽培がなくなるためパイプ金具での怪我が減る
- ・場所が足りないための移動が少なくなり、省力化につながる
- ・将来的な自動灌水施設の設置のためのスペースができる
- ・育苗と親株養生とプラグ育苗のスペースを分けることができる（温度管理が容易になる）

【生産量UP】

現在の面積の約3倍の広さに、現在生産量の約2倍の生産量を確保します。

余裕のあるスペースに、大量の苗の生産を行うことができます。

また、品切れ続出の状況から、お客様にある一定の商品の供給を行うことができるようになります。

※別添資料「ハウス増設に伴う栽培計画」参照

解決策2 出荷作業スペースが狭い！問題に対する解決策

「出荷用ハウスの新設」8m×20m 1棟

現状、1日150個の宅配便配送が300個まで増えると予想されます。

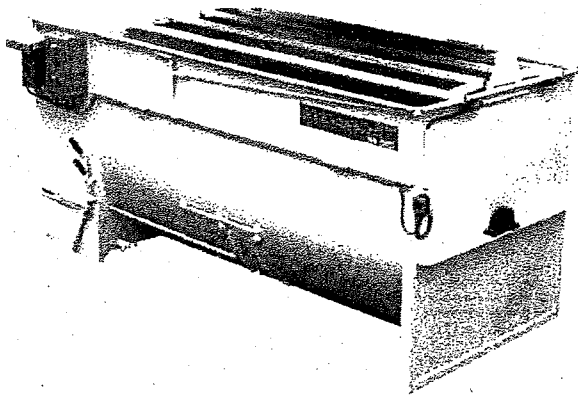
現在の84平米のハウスでは台車積やカーゴの活用が難しく（横幅が狭いため）8m間口の160平米ハウスの新設を行い、12ケース苗が乗る台車の活用とカーゴによる宅配荷物の積み込みを行います。

また、間口の大きいハウスにすることによりフォークリフトなどでの積み込みや荷物の移動ができるようになります。

将来的に台車移動もロボット化していくためにも、余裕のあるスペースの確保を行う必要があります。

解決策3 培養土のかくはんが「スコップ」に対する解決策

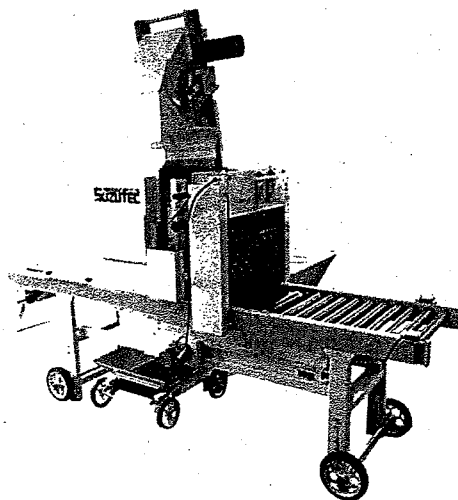
「ソイルミキサーの導入」「格納用作業用ビニールハウスの新設」 8m間口×20m 1棟



今まで、2人で2時間かけて混ぜていた土づくりが、1人で20分程度で完了します。
一度に2000リットルかくはんし、かくはん時間は5分程度で完了します。
ソイルミキサー導入と同時に、格納用ビニールハウス（8間口×20m）1棟新設します。
このビニールハウスは、この後のポットイングマシンの設置場所としても使用します。

解決策4 ポットの土入れが手作業に対する解決策

「ポットイングマシンの導入」



3人で1日に25,000ポット入れることができます。
手作業であれば、4人で3日かけて行っていた量です。

解決策 5 腰痛のスタッフ続出に対する解決策

「栽培用ベンチの導入」

かがむ作業、狭いところでの作業を解決するために、ベンチ栽培の導入を行います。様々な品目での導入が進んでおり、体への負担が軽減されるベンチ栽培を早期に導入する予定です。

解決策 6 道がボコボコに対する解決策

「作業用通路の舗装」

幅3mのアスファルトの舗装にて東西の通路を敷設します。今年度導入したフォークリフトにて農場内すべての運搬が行えるように舗装を行います。2025年度には、作業ハウスと生産ハウス間を無人電動運搬車での出荷物並びに生産資材の運び入れを行います。無人電動運搬車を使用し、ITC化ならびに省力化を行うための事業として舗装を行います。

解決策 7 休憩スペースの確保に対する解決策

「4坪の作業場の新設」

花壇苗や多肉植物の生産量の増加に伴い作業場が不足しており、出荷時に行う作業に使用する作業場を整備する。この作業場での作業には6名のスタッフが必要なため、6名の休憩スペースの確保にも対応できます。

解決策 8 水が出ない！に対する解決策

「井戸水のボーリング」

農業用水の給水が止まる冬季 12～2 月もいつでも用水が使えるよう、ボーリングを行います。近隣農家の方も冬場は 3 キロ離れた場所へ水を汲みに行くため、近隣農家の方へも冬場は水源の提供を無償で行います。

また、貯水タンクに水を貯めておき、手洗いにも活用し衛生管理向上を図ります。

⑥取り組み内容 ◎具体的な取り組みと役割分担

項目		2021年度	2022年度	2023年度	役割分担等
規模 拡大	栽培用ビニールハウス	◎			実施主体、県、市
	栽培用ビニールハウス6棟建設			◎	実施主体、県、市
	アスパラガスの新規作付け	○			実施主体
	栽培用ビニールハウス		◎		実施主体、県、市
	栽培用ビニールハウス4棟建設		◎		実施主体、県、市
効率 化	培養土ハウス（ビニールハウス）	◎			実施主体、県、市
	ソイルミキサー	◎			実施主体、県、市
	ポットティングマシーン		◎		実施主体、県、市
	出荷作業用ハウス		◎		実施主体、県、市
	舗装工事		◎		実施主体、県、市
衛生管理	井戸水（農業用・手洗い用）			◎	実施主体、県、市
雇用管理	作業場（プレハブ）4坪			◎	実施主体、県、市
	栽培ベンチの導入	○			実施主体
	建築技術者の雇用	○			実施主体
	雇用者への待遇強化	○			実施主体

※◎はがんばる農家プラン支援事業

○は支援事業以外の取り組み

また、将来のリスクに備えた支援事業以外の具体的な取り組みは以下のとおり行うこととしている。

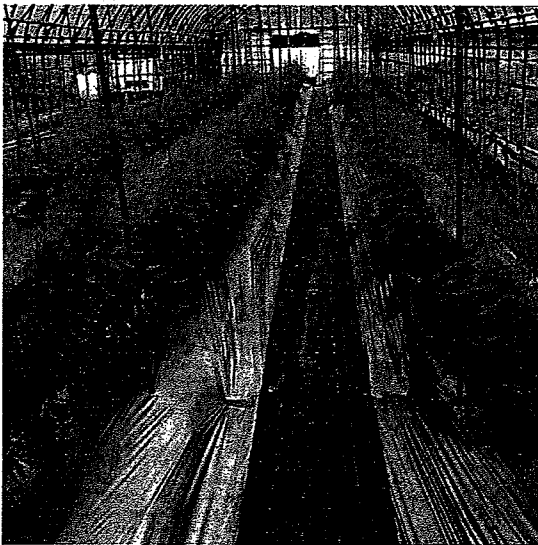
1. 他品目の導入（アスパラガス栽培）

花壇苗だけでは、何かあったときに売り上げが0になってしまうという不安から、別のエリア（XXXXXXXXXX）での別品目（アスパラガス）栽培を導入する。

通販を中心とした売り先の場合、売り先で大きな災害があった場合は全く売れなくなりますが、花壇苗という品目としても、災害時は売れ行きが半減します。

また、台風などの大規模災害時でもビニールは破れても、地下茎が残るので、翌年には元に戻すことができます。

現時点で4a作付けが済んでおり、2021年度には10.aの作付面積になるように準備を進めています。



写真=XXXXXXXXXX農場でのアスパラガス栽培

2. 建築技術者の採用

2021年採用にて、10年大工を経験した人材を内定している。

ビニールハウスの施工チームとして、もう1名臨時雇用可能な方を確保しており、2名体制にてビニールハウス施工班を部署として設ける。

災害時でも修繕用の材料をストックしているため、最短で復旧作業を行うことができる。

3. 様々な保険への加入

- ① リスクに備えて収入保険への加入
- ② 労災保険の補完保険の加入（死亡+2500万 ケガ1万円/日）
- ③ 総合損害保険の加入（火災保険・施設賠償他商工会議所の保険）
- ④ 代表者の生命保険の加入（死亡保障3000万）

⑤ 退職金制度への加入（パート含めて全従業員）
 様々なリスクに備えて、常に対策を立てていきます。

◎支援事業の内容

年度	品名	数量	事業費	負担区分		
				県 (1/3)	市 (1/6)	事業実施主体 (1/2)
2021年度	栽培用ビニールハウス	6m×49m 1棟	1,357,749	452,583	226,292	678,874
	培養土ハウス（ビニールハウス）	8m×20m 1棟	2,750,000	916,666	458,334	1,375,000
	ソイルミキサー	1台	3,630,000	1,210,000	605,000	1,815,000
	計		7,737,749	2,579,249	1,289,626	3,868,874
2022年度	ビニールハウス4棟建設	6m×49m 5棟	5,430,996	1,810,332	905,166	2,715,498
	ポットینگマシン	1式	3,450,000	1,150,000	575,000	1,725,000
	出荷作業用ハウス	8m×20m 1棟	2,750,000	916,666	458,334	1,375,000
	栽培用ビニールハウス	6m×25m 3棟	2,534,340	844,780	422,390	1,267,170
	舗装工事	413平米	6,325,000	2,108,333	1,054,167	3,162,500
	計		20,490,336	6,830,111	3,415,057	10,245,168
2023年度	ビニールハウス5棟建設	6m×49m 5棟	8,146,494	2,715,498	1,357,749	4,073,247
	井戸水（農業用・手洗い用）	1式	6,050,000	2,016,666	1,008,334	3,025,000
	作業場（プレハブ）4坪	1棟	1,485,000	495,000	247,500	742,500
	計		15,681,494	5,227,164	2,613,583	7,840,747
	合計		43,909,579	14,636,524	7,318,266	21,954,789

⑧プランによる効果（地域としての役割）と展望

【雇用創出企業としての役割】

3年後の実施後の目標として、新たに5名の雇用と2名のパートタイム労働者を正規雇用することを目標とする。

【納税】

利益の計上を行い、納税を行うことが企業として一番の社会貢献であると考えます。

現状 税引前純利益 〇〇〇〇円→3年後 〇〇〇〇円

各種補助金を使用し、多くの利益を出し、納税を行うことで地域に恩返しができると思っています。

また、弊社3万人の顧客に向けて、ふるさと納税の返礼品として弊社の苗を紹介し、倉吉市の納税促進にも貢献したい。

【社会貢献】

現在、5施設（小学校、保育園など）への花壇苗の無償提供を行っている。

花を通じた地域の環境整備や社会教育へのコンテンツとして、できる限りの協力を行い、花壇苗の無料配布も今後順次拡大していく予定です。